

2023年11月9日～10日

第68回日本生殖医学会学術講演会・総会

於 石川県立音楽堂、ホテル日航金沢、金沢市アートホール

第7会場 演題番号：O-081

演題名：「不妊治療中のカップルに見る梅毒感染率の変動 - 都市部不妊治療施設における後方視的研究」

発表者： 小宮 慎之介 (HORAC)

抄録：

【目的】現在日本では梅毒感染症が増加傾向にある中、特に不妊治療中のカップルの感染状況について未だ十分な調査が行われていない。本研究では、都市部の不妊治療施設における梅毒感染率のトレンドを明らかにし、不妊治療中のカップルにおける感染予防対策についての提案を行うことを目的とする。

【方法】2015年の当院開業時点から2023年3月までの8年間に当院で不妊治療を受けたカップルの初診時に実施した梅毒感染症検査結果を後方視的に集積し、梅毒罹患率の推移を確認した。本検討においては、RPR陽性かつTP陰性の症例を梅毒感染初期と判断し、治療対象とした。本検討を実施するにあたり、後方視的な情報集積について施設内倫理委員会の承認を得、オプトアウトの機会を保障した。

【成績】本検討の結果からは、男性の梅毒感染率が2015年から2023年まで継続的に増加傾向にあることが確認された。特に2021年には観察期間における最大値である1.4%の感染率が認められた。一方で、女性の感染率は全期間を通じて増加傾向を示さず、最大でも0.5%に留まっていた。

【結論】不妊治療中の男性は家庭以外でも性的接触機会を持つ可能性があると考えられ、これが感染率増加の一因と考えられた。これらの結果は、梅毒の流行に対する認識と、適切な予防策の必要性を不妊治療中のカップルに強く示すものである。

【考察】感染症の流行と不妊治療中のカップルの間に見られたこの相関は、社会全体にとって考慮すべき課題を示している。感染症の対策として、不妊治療中のカップルに対する適切な情報提供が重要であると考えられる。また、不妊治療中だからといって、家庭外での性的接触がないわけではないという認識が必要であり、その点を踏まえつつ、パートナーの梅毒罹患が判明した際には、医療者がカップルに対して適切に説明することが求められる。